

改訂

火災から命を守る

住宅防火読本



はじめに

「火災から命を守る 住宅防火読本」は、住宅における総合的な火災安全対策を分かりやすく編集したもので、平成 30 年に改訂し、おかげさまで多くの皆さまの手にとっていただき、ご好評をいただいております。

特に、住宅の防火対策に関し、当冊子では住宅用火災警報器や住宅防火の注意点等について、分かりやすく説明しています。

今回の改訂は、住宅用火災警報器についてより詳しく解説するとともに火災の数値の更新や新たな事例の掲載見直しを中心に行っています。

住宅用火災警報器の全国の設置率は、令和 3 年 6 月 1 日現在で 83.1% となっておりますが、設置後 10 年が経過し、電池切れや性能・機能の低下により更新の時期を迎えているものが見受けられるようになってきています。特に、住宅用火災警報器の更新の時期に留意していただくとともに、当冊子を活用していただき、住宅用火災警報器の機能を適正に維持するための点検とメンテナンスに、ご留意いただければと思います。

この住宅防火読本を日頃からご活用いただき、住宅防火対策のさらなる充実と、火災発生防止や被害の軽減にお役立っていただければ幸いです。

令和 3 年 11 月



この冊子を活用しましょう!

住宅用火災警報器が鳴ったとき、皆さんはどのように行動しますか？

この冊子では、住宅に潜む火災の危険とその予防対策を、また、万が一火災が発生したときの行動について説明しています。

いざというときに備えて、ぜひご活用ください。



目次

第1章 火災の実態

- 住宅火災の実態を知ろう！・・・4
 - 原因別にみる！火災の危険・・・6
 - こんろによる火災の対策・・・8
 - 電気器具類による火災の対策・・・10
 - たばこによる火災の対策・・・12
 - ストーブによる火災の対策・・・14
 - 放火の対策・・・16
-

第2章 火災を防ぐために

- 火災を防ぐためにはこんな防火・防災製品があります！・・・18
 - 知らせる！住宅用火災警報器は命を守る・・・20
-

第3章 火災が起きたら

- 住宅用火災警報器が鳴ったら・・・24
 - 消火するか・・・26
 - 火を消すことができたら・・・27
 - 周りに知らせよう・・・28
 - 避難しよう・・・29
 - 消防に通報する・・・30
-

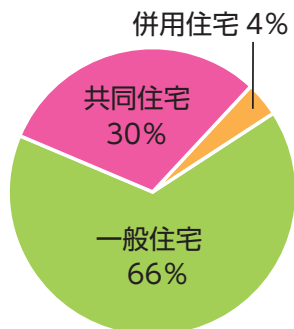
資料

- 日頃から家族で話し合っておきましょう・・・31

住宅火災の実態を知ろう！



1日約28件、約52分に1件
誰かの家で火の手が上がる！



出典：火災の実態について
(令和元年中) 消防庁予防課

住宅火災は財産だけでなく、自分や家族の命、ご近所の方の安全をも危険にさらす恐ろしいものです。

住宅火災の件数（放火を除く）は、全国で年間10,058件。1日に換算すると約28件、約52分に1件、火の手が上がっています。**火災の危険は想像以上に身近なところにあるのです。**

1年間の住宅火災件数



10,058件

(放火を除く)



早期発見を心がけて適切な行動を!

住宅火災から大切な家族を守るためには、いくつかの対策が考えられます。まず、**いちばん大切なのは、火災を早く見つけること!**そして、**初期の段階で適切な行動をとること**です。そのために必要な知識と防火・防災機器について知っておきましょう。



火事だー

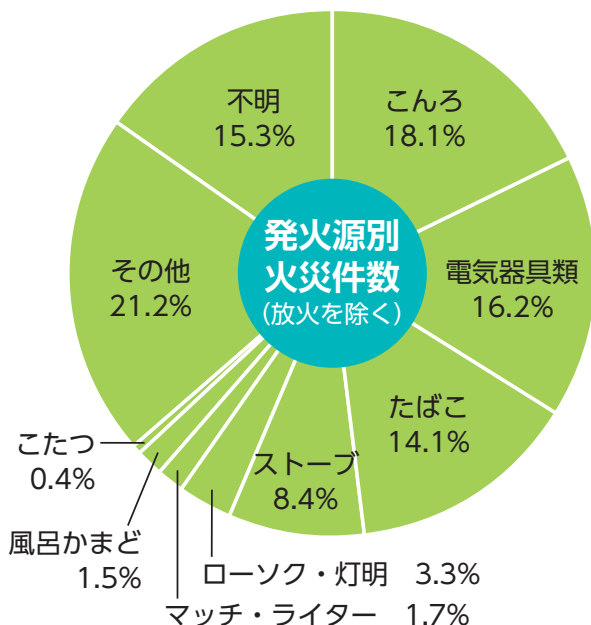


原因別に見る！火災の危険

ここでは、住宅火災の原因と死者数について説明します。

住宅火災の“発火源”は？

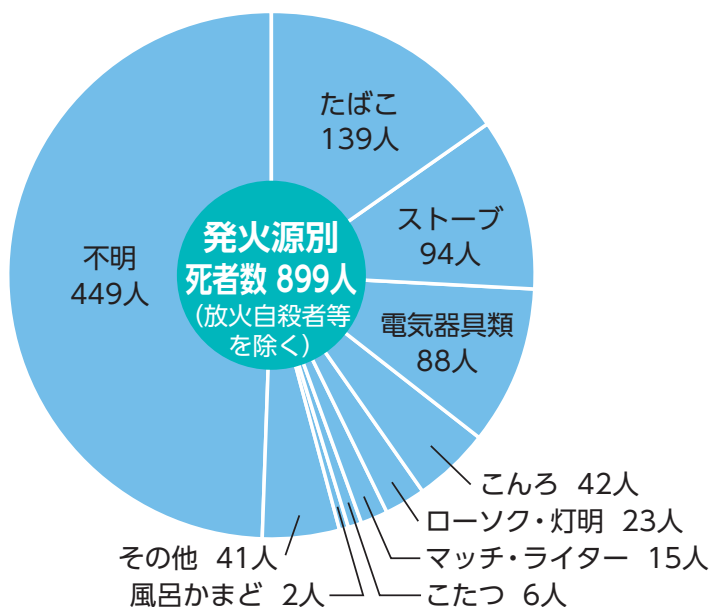
発火源別火災件数の第1位は「**こんろ**」、
第2位は「**電気器具類**」、第3位は「**たばこ**」



出典：火災の実態について
(令和元年中)
消防庁予防課

住宅火災の発火源別死者数は？

発火源別死者数の第1位は「たばこ」、
第2位は「ストーブ」、第3位は「電気器具類」



出典：火災の実態について
(令和元年中)
消防庁予防課

こんろによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「こんろによる火災」について説明します。

こんろによる火災を知ろう！



調理中は絶対に**その場を離れない**、
離れるときは必ず**火を消すこと**!!

注意点と予防方法

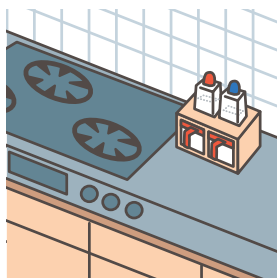
① 着衣着火に注意！

着衣着火とは、こんろの炎が衣服に燃え移ることで、袖口などは特に注意をはらいましょう。防災品であるアームカバーなどを着用すると安心です。



② こんろの周りに物は置かない！

こんろの近くに置いていた布巾に、火が燃え移ってしまうこともあります。こんろの周りには物を置かないようにしましょう。



ヨラム

地震が起きたときは

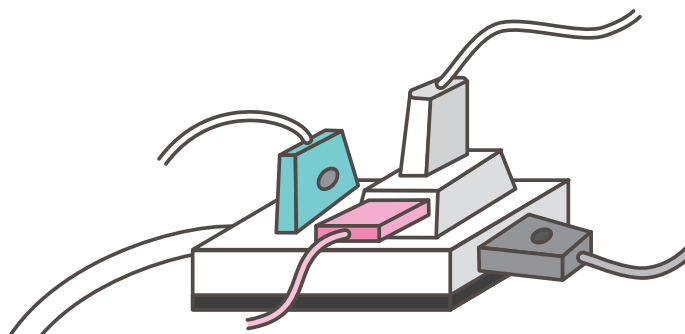
調理中に地震が発生したら、慌てずに火を消すなど、身の安全をはかりましょう。



電気器具類による火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「電気器具類による火災」について説明します。

電気器具類による火災を知ろう！



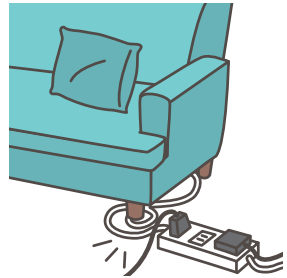
電気器具類の発熱注意
見えないところで発火することも

注意点と予防方法

①コード類の取扱いに注意！

許容電流を超えることで発熱・発火するたこ足配線は、火災原因の一つです。電気器具類等の同時使用に気をつけましょう。

また、コードの上に重いものを乗せると配線に負荷がかかってショートすることもあるので、気をつけましょう。



②トラッキング現象に注意！

コンセントと電源プラグの間にほこり等がたまり、湿気が加わるとそれが導線になり電気が流れます。やがてそこから発火するのが「トラッキング現象」です。コンセントの周りはこまめに掃除をして、ほこりをためないようにしましょう。



ヨラム

電源プラグのトラッキングによる火災事例

突然ブレーカーが落ち玄関のブレーカーを上げたところ、火花の音が聞こえた。確認すると、テレビ裏のコンセント付近から火が出ているのを発見した。



たばこによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「たばこによる火災」について説明します。

たばこによる火災を知ろう！



**長い時間をかけて火災になる
たばこによる火災の怖さ**

注意点と予防方法

①寝たばこは絶対にしない！

たばこの火がついた布団は、炎を上げないでゆっくりと燃焼を続け、空気の流入などの条件がそろえば、炎を上げて燃え始めます。布団などの近くでは、たばこを吸わないようにしましょう。



②たばこの火は必ず消すこと！

たばこの火は必ず消しましょう。吸い殻は必ず灰皿に入れ、火が消えていることを確認しましょう。

また、家の中で喫煙場所を決めておくことも、たばこによる火災を未然に防ぐ基本的な方法です。



コラム

たばこによる火災事例

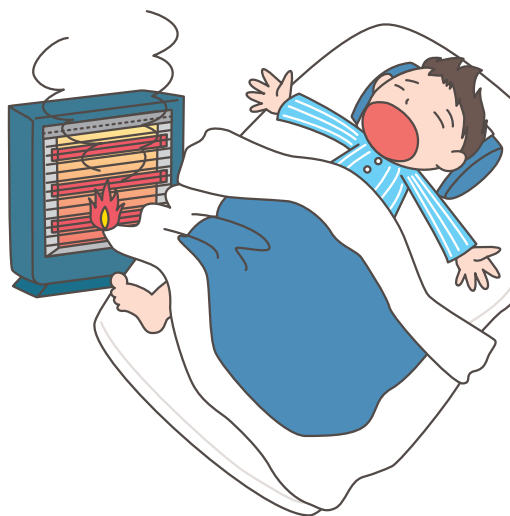
居住者が居室で飲酒しながら喫煙し、たばこの火種が座布団に落ちて着火。火災となり居住者が初期消火したものの完全に消火せず、数時間経った後再出火した。



ストーブによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「ストーブによる火災」について説明します。

ストーブによる火災を知ろう！

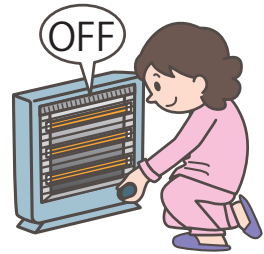


ストーブの周りは常に警戒、
離れるときは必ず火を消すこと！！

注意点と予防方法

①就寝前は必ず電源をオフに！

ストーブ火災による死者数の内訳を種類に着目してみると、電気ストーブと石油ストーブ等はそれぞれほぼ半数を占めています。電気ストーブを使用する場合にも十分に注意が必要です。就寝前は油断せず、必ず電源をオフにする習慣をつけましょう。

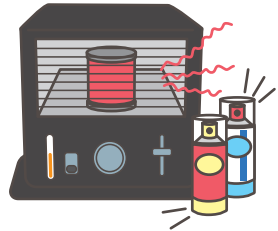


②給油・移動は特に注意を！

石油ストーブの場合、火をつけたままの給油や、持ち運びは絶対にしてはいけません。

③ストーブの周りを警戒！

スプレー缶など破裂の可能性があるものや、洗濯物や布団などの燃えやすいものは近くに置かないようにしましょう。



コラム

ストーブの火災事例

脱衣所で使用していた電気ストーブのスイッチを消し忘れて外出。干されていたバスタオルが落下したため着火し、火災となった。



放火の対策

ここでは火災原因の一つ、「放火」について説明します。

放火を知ろう！



『放火されない』、『放火させない』、
『拡大させない』

注意点と予防方法

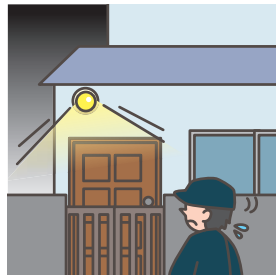
①燃えやすいものは放置しない！

古紙や段ボールなどを屋外に出しておくと、放火されやすくなります。ごみ出しの日まで、室内で保管しましょう。



②暗がりをつくらない！

暗い場所は人目につかないため、格好の放火場所になってしまいます。照明などをつけ、明るくすることで放火されにくい環境をつくりましょう。



ヨラム

放火の火災事例

深夜に、ごみ集積所に置いてあったごみに何者かがライター等で放火した。

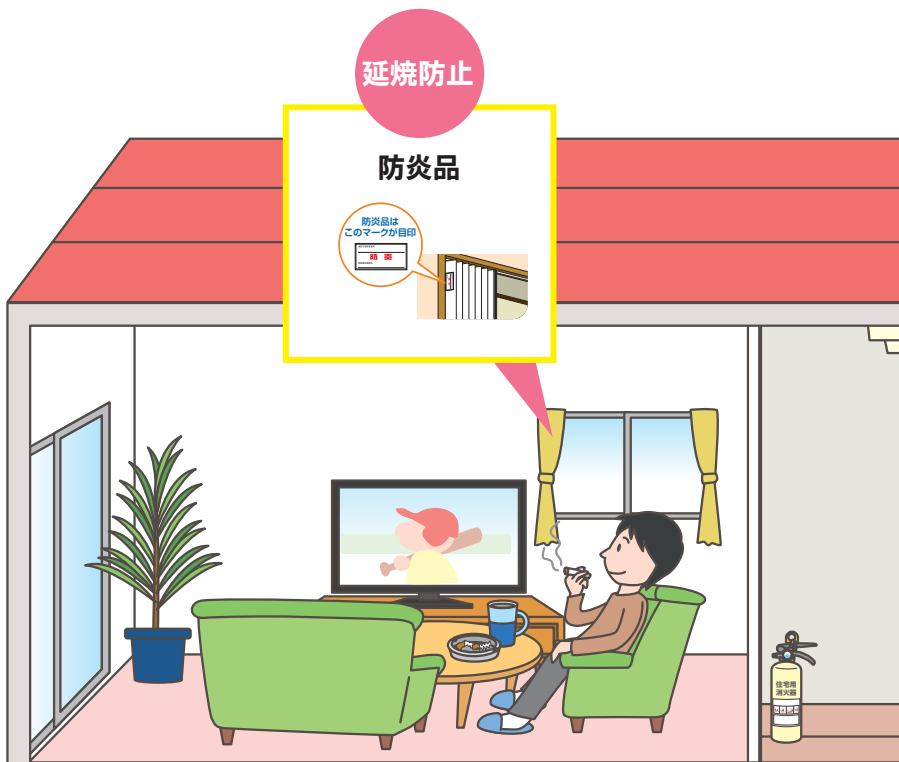


火災を防ぐためにはこんな防火・防災

延焼防止

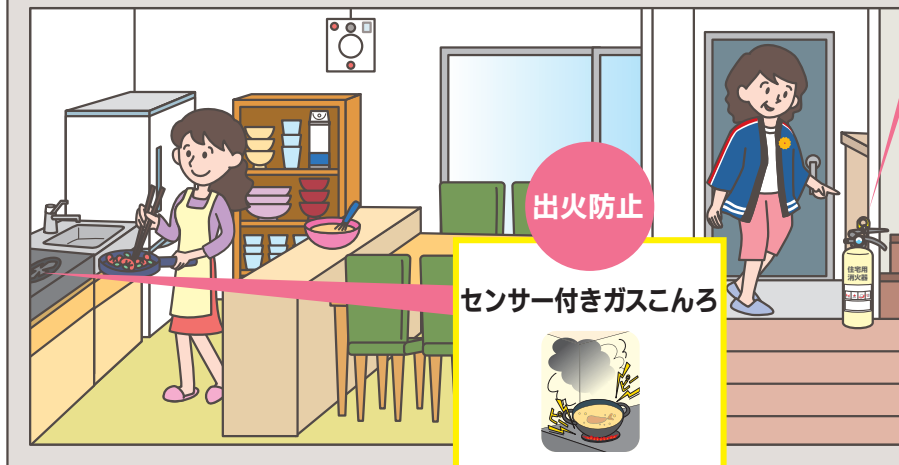
防災品

防災品は
このマークが目印



出火防止

センサー付きガスこんろ



製品があります！

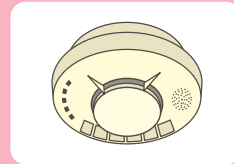
初期消火

住宅用消火器



早期発見

住宅用火災警報器



詳しくは⇒ P.20 ~ 23

出火防止

感震ブレーカー



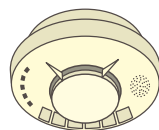
知らせる！住宅用火災警報器は命を

▶住宅用火災警報器とは…

煙や熱を感知して火災の発生を知らせます。現在市販されているものは「煙式」と「熱式」があります。そのほかに、ガス漏れを検知できるものもあります。

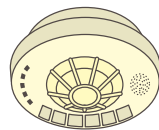
●煙式

煙を感知して火災と判断します。熱式よりも火災を早く感知することができます。



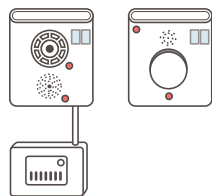
●熱式

熱を感知して火災と判断します。台所や車庫等、煙が発生しやすい場所は煙式より熱式の設置がお勧めです。



●複合式

火災のほかにガス漏れや一酸化炭素も検知できる警報器です。台所などへの設置がお勧めです。



●補助警報装置

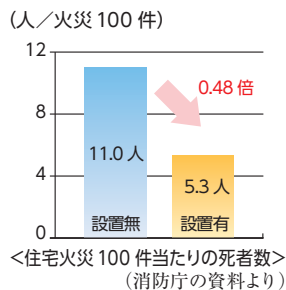
住宅用火災警報器と連動して音や光を発するもので、高齢者の方、目や耳の不自由な方も火災を察知しやすくなります。

<LPガス用><都市ガス用>

コラム

住宅用火災警報器の効果

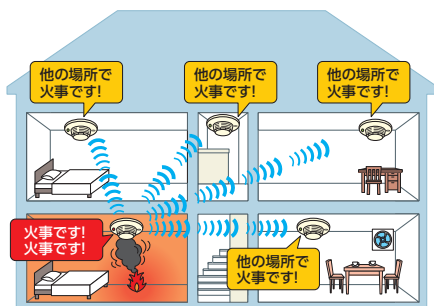
住宅用火災警報器を設置している場合、火災発生時、設置していない場合と比べ、死者数が約5割に減っています。住宅用火災警報器の設置が、火災発生時に有効であることが分かります。



守る

●連動型住宅用火災警報器

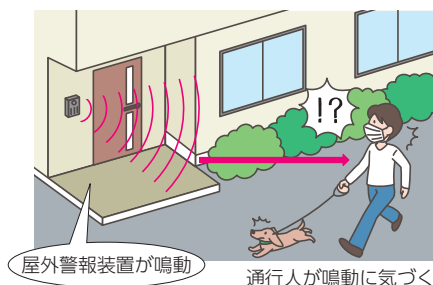
一つの住宅用火災警報器が火災を感知すると他のすべての警報器が鳴ります。無人の場所でも他の場所で出火した場合でも他の場所で警報音を発しますので、早期発見に効果的です。



連動型住宅用火災警報器が感知

●屋外警報装置

連動型住宅用火災警報器が火災時に発する無線信号を受信し、屋外で火災警報を発する装置です。



(((購入方法等について)))

設置方法

●新築、改装を計画されている場合

住宅メーカー、工務店にお問い合わせください。

●自分で取り付ける場合

お近くの量販店や電気店等にお問い合わせください。

このほか住宅用火災警報器に関する質問は「住宅用火災警報器相談室」でも受け付けています。

⇒ フリーダイヤル 0120-565-911

購入方法

・購入する際には、お近くの量販店や電気店等にお問い合わせください。

なお、消防署が販売することはありません。

・量販店等で購入する場合は、住宅用火災警報器の品質を保証する検定の合格表示が付いているものを設置しましょう。

合格表示
(検定マーク)



知らせる！住宅用火災警報器は命を

▶ 日頃から点検・メンテナンスをしよう

住宅用火災警報器が正常に作動するか、1か月に1回程度、定期的に点検をしましょう。また、住宅用火災警報器は長く取り付けている間に感知部分にほこりが付いたり、台所に設置してある場合は油や煙で汚れて、火災を感知しにくくなることがあります。いざというときに効果を発揮するためにも、日頃から定期的な点検・メンテナンスをしましょう。

● 定期的に点検しましょう

住宅用火災警報器から下がっているひもを引く、又はボタンを押すなどして作動試験を行います。

● メンテナンス

ほこり、小さな虫などは誤作動の原因にもなるので取り除き、年に一度家庭用の中性洗剤などに浸し、固く絞った布で軽くふき取ってください。



※ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

※故障の原因になるため水洗いはしないでください。

● 交換の時期

設置から **10年**以上が経過すると、電池の寿命や本体内部の電子部品の劣化などで不具合が発生しやすくなります。そのため、交換の目安を設置後10年とし、本体の交換をお勧めしています。

※電池切れの場合、電池交換で正常に作動し始めますが、本体の経年劣化により故障しやすくなっていますので、電池 + 本体の交換をお勧めしています。

● 廃棄方法

- ・住宅用火災警報器や電池を廃棄するときはお住まいの地域のルールに従って廃棄してください。
- ・廃棄するときは、住宅用火災警報器本体から電池を外すこともお忘れなく。

守る

奏功事例 ①

居住者が鍋を火にかけたまま寝込んでしまい、鍋が加熱され続け食材が燃え、こんろ周囲の可燃物に着火し火災となりました。住宅用火災警報器の鳴動音に気づいた居住者は、初期消火を実施。住宅用火災警報器の鳴動音を聞いた隣人が火元の部屋から煙が出ているのを発見し、119番通報しました。



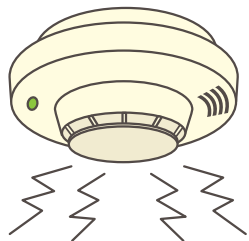
奏功事例 ②

居住者が2階の寝室で就寝中、掛け布団が電気ストーブに接触して着火し火災となりました。居住者は、住宅用火災警報器の鳴動音で目が覚め掛け布団から煙が出ているのを確認。同時に1階居室の連動型住宅用火災警報器が鳴動したため、すぐに気づいた1階の居住者家族が初期消火を行い119番通報しました。



住宅用火災警報器が鳴ったら…

まずは、落ち着いて火災かどうかを確認！



スタート!

火元の確認

どこの住宅用火災警報器が
鳴ったか？
火災が発生？

火災

消火するか？

▶▶▶ 26 頁へ

する

周りに知らせながら

▶▶▶ 28 頁へ

住宅用消火器等で
火を消す

できた

消火



火災が発生？まずすることは？

このフローチャートに沿って行動しましょう。

火災ではない

火災ではなく、
住宅用火災警報器が
鳴る場合もあります

しない

できない

周りに知らせながら

▶▶▶ 28 頁へ

逃げる

▶▶▶ 29 頁へ



消防に通報する

▶▶▶ 30 頁へ

消火するか

▶消火の判断は？

住宅用火災警報器が鳴った段階では、どの部屋でどのくらいの大さの火災が発生しているか、はっきりとは分かりません。そのため、まずは現状を確認することが大切です。以下のポイントに留意して、消火・避難の判断ができるようにしておきましょう。

▶消火する、しないの判断は？

消火する

- ✓ 火元が確認できる（視界がきく）。
- ✓ 炎が天井や自分の背丈よりも小さい。

消火しない

- ✓ 火元が確認できない（煙の充満等で視界がきかない）。
- ✓ 炎が天井に届いていたり、自分の背丈よりも大きい。

▶消火するときは！

●落ち着いて安全確認を

避難する方向、経路など周囲を確認しましょう。

●住宅用消火器は確実に操作しましょう

火元を狙って放射しましょう。

●以下の場合、速やかに逃げる判断をしましょう

- ・住宅用消火器の消火剤がなくなった。
- ・炎が天井まで届いてしまった。
- ・消火できなかった。

コラム

防災訓練等に積極的に参加しよう

実際に火事を目の前にすると慌ててパニックを起こしてしまうものです。日頃から自治体等で行われている防災訓練に積極的に参加し、いざというときは訓練を思い出して行動しましょう。

火を消すことができれば

🗨️ 火が消えたら、 チェックすること

- 完全に火が消えたか確認する。
- ガスを使用していたら元栓を閉める。
- 電気製品から出火した場合は感電に気をつけて
 - ・コンセントから電源プラグを抜く。
 - ・ブレーカーを落とす。
- 119 番通報する。



ワラム

やけどを負ってしまったら？

応急処置として、速やかにやけどした箇所とその周辺を水で冷やしてください。着衣が燃えてやけどした場合は衣服を無理に脱がさず、そのまま冷やしましょう。



周りに知らせよう

▶ 大声で周りに知らせる

火災を周りに知らせるときには「**火事だー**」と大声で叫んでください。火災による被害を最小限にするためには、周りに知らせることが必要です。

● 家の中に家族がいる場合

家族に知らせ、協力して消防への通報や消火などを行いましょう。

● 一人暮らしの場合

隣近所の住民に知らせましょう。通報や消火の協力を依頼しましょう。

コラム

避難路の確保を

特に高齢者が就寝する部屋は避難しやすい場所を選びましょう。



避難しよう

▶ 避難すると判断したら

避難のポイント



- 持ち物などにこだわらず、身の安全が第一です。
- 一度逃げたら絶対に戻らないようにしましょう。
- 高齢者や身体に障がいがある方がいる場合は、避難を優先させましょう。
- 火元から離れるように逃げましょう。
- 家族がいる場合、逃げ遅れがないように避難しましょう。
- 逃げ遅れた人がいる可能性がある場合は、消防隊に伝えましょう。

コラム

煙に注意して避難しましょう！

● 煙の特徴

煙は高いところからたまり、煙の量が増えると床近くまで下がってきます。

● 煙から逃げるポイント

タオルやハンカチ等で鼻と口を覆い、姿勢を低くして逃げます。この際、煙を吸い込まないように注意しましょう。

消防に通報する

▶ 119番通報のポイント

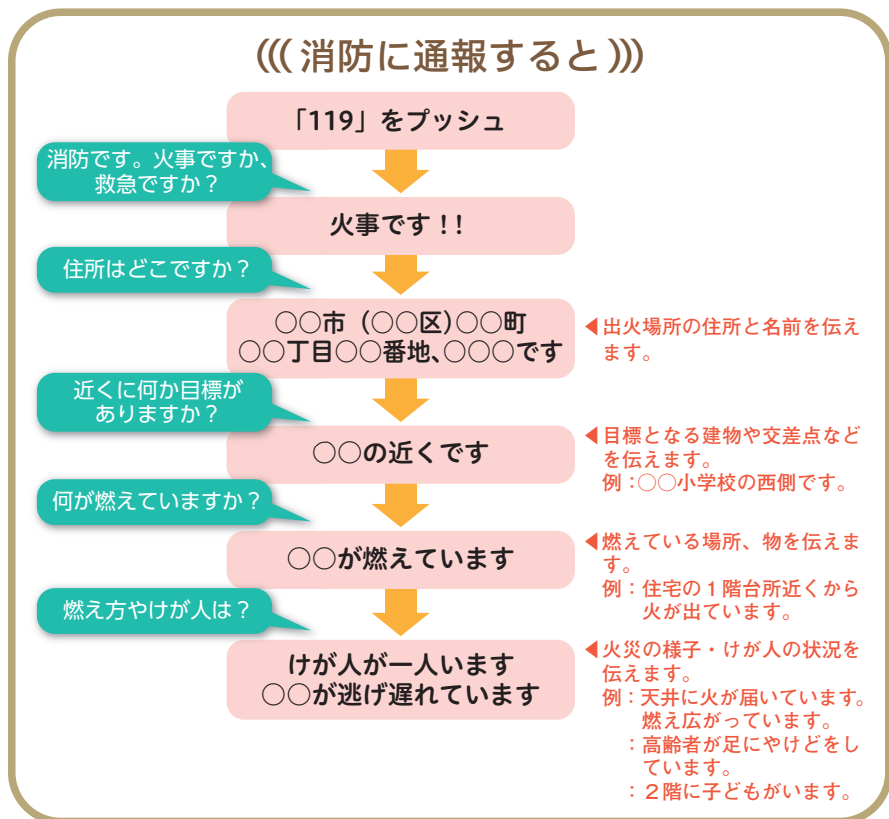
慌てずに落ち着いて、正しく情報を伝えることが重要です。

● 固定電話からの通報

電話のそばに自宅住所や目標物を書いたメモを備えておきましょう。

● 携帯電話からの通報

- ・ 携帯電話であることを伝えましょう。
- ・ 電話番号は必ず伝えましょう。
- ・ 状況確認のため、消防本部から連絡がある場合があります。



日頃から家族で話し合っておきましょう

▶ 日頃の準備が大事です

まずは火災を起こさないための環境や習慣づくり、いざというときの心構えを身に付けることが大切です。

火の用心

● 家族で話し合い

火災を起こさないよう、万全の備えをすることが一番ですが、万が一起こしてしまった場合には、家族全員が冷静に行動することが、被害を最小限にとどめるためにも重要です。日頃から消火器の置き場所や使い方についても家族で話し合い、確認しておきましょう。

● 避難方法の確認

家庭内における避難方法を複数決めておきましょう。

● ご近所付き合い

火災などの災害時に支援が必要な方の住まいやその周囲の環境などを把握して、いざというときに助け合うことが大切です。

日頃からご近所と連携した協力体制をつくっておきましょう。



日頃から家族で話し合っておきましょう

住宅防火いのちを守る 10のポイント 4つの習慣・6つの対策

4つの習慣

- 寝たばこは絶対にしない、させない。
- ストープの周りに燃えやすいものを置かない。
- こんろを使うときは火のそばを離れない。
- コンセントはほこりを清掃し、不必要な電源プラグは抜く。

6つの対策

- 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
- お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

改訂

火災から命を守る

住宅防火読本

令和3年11月発行

編集：一般財団法人 日本防火・防災協会

〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルトビル14

階電話 03-6280-6904 / FAX 03-6205-7851

URL <https://www.n-bouka.or.jp/>

発行：日本消防検定協会

〒182-0012 東京都調布市深大寺東町4-35-16

電話 0422-44-7471 (代表) / FAX 0422-47-3991

URL <http://www.jfeii.or.jp/>

印刷・製本：東京法令出版株式会社



改訂

火災から命を守る

住宅防火読本